

農学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、社会的にますます重要性を増している環境問題、食料問題、生活の質の向上などに対処するため、環境保全方式による安全で高品質な食料の安定供給に加え、作物の生産と利用によるビューティフルヒューマンライフの確立、地球環境保護等を志向する農学の新しい展開に、国内はもちろん国際的にも貢献できる使命感豊かな教育・研究者および高度な専門的職業人などの人材育成を目指す。

そのため、「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」の東京農業大学のDNAを引き継ぎ、実理に重点をおいた講義・実験・演習・研究による実学主義的教育手法によって、多様な専門分野の教員の指導のもとで教育・研究を行うことを目的とする。

特に、博士前期課程においては、環境に優しい栽培法や作物の安定生産、ならびに有用植物の遺伝と育種を研究する作物生産学、安全な食料生産のために微生物および昆虫類の多様性や生態を研究する植物保護学、果樹、野菜、花卉の生産技術や生理・生態を研究する園芸生産学、高品質で機能性に富む園芸作物の生産と収穫後の鮮度保持技術を研究する園芸機能開発学に関する広い学識とそれぞれの分野における研究能力を有する人材の育成を目指す。また、博士後期課程においては、さらに高度の専門性が求められる研究を担うための卓越した発想・問題解決力と強い使命感をもった人材を養成する。

【アドミッションポリシー】

このような教育研究上の目的に基づいて、本専攻では農学にかかわる豊かで高度な学識と優れた発想・問題解決力を備え、研究・教育・専門的業務における諸活動を活発に展開しようという熱意のある人を求める。特に次のような人を望みます。

博士前期課程：農学に関する基礎学力を有し、明確な目的意識と探究心をもって研究を進めようとする意欲を持った人

博士後期課程：さらに高度な農学に関する学識を有し、農学における専門的職業人・研究者として将来活躍し、地域社会や国際社会に貢献しようとする人

畜産学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、環境保全を考慮した広範な畜産学の教育・研究の実践を目指している。具体的には、家畜繁殖学、家畜育種学、家畜生理学を通じた動物の遺伝・生殖・代謝・免疫等の各種生命現象に関する生命科学領域、家畜飼養学、家畜衛生学、畜産物利用学を通じた家畜の生産・飼育管理、経済性や畜産物の利用・流通等の生産科学領域において、生態系から動物体、生産物、細胞から分子レベルまでの幅広い見識と実学力の向上を最新の話題・問題点を取り入れた講義ならびに実験実習を通じて、専門領域から学際領域にいたる広範な先端学術および関連技術の教育・研究を行うことを目的とする。教育・研究目的の達成度は、特別実験実習による論文指導、学位論文審査会を通じての内部評価と、学会での発表、学術論文の公表等で広く外部評価を求める。

本専攻では研究、教育、産業、行政等あらゆる畜産関連分野において常に時代の要請に応えうるリーダーとして活躍し、豊かな社会の創造・発展に寄与しうる人材の育成を目指す。特に、博士前期課程で

は畜産現場における問題解決に取り組む手法を学び、修得した知識・技術を活用し得る人材の育成を、また博士後期課程では専門領域を基盤として広範な関連分野での応用も含め、研究者・高度専門職業人として社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

【アドミッションポリシー】

生活の質向上に大きく貢献する畜産学領域に対し、食のみでなく医・薬との学際領域をも見据えた幅広い視点で畜産学に興味を持ち、自主的な勉学・研究に取り組み、その成果を社会で活かしたいという熱意あふれる人、特に、次のような人の入学を期待します。

博士前期課程：畜産現場の問題解決に対する意識が高い人

畜産に関わる高度な専門的知識・研究手法の修得を目指す人

博士後期課程：専門基礎領域の学理の追究に旺盛な意欲のある人

畜産学の問題解決に真摯に取り組み、その解決にチャレンジしようとする人

畜産学の研究者・高度専門職業人を志す人

バイオセラピー学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、生産科学や生命科学としての農学を基盤とし、生き物を活用した環境保全、人の生活の質の改善や健康の向上、心身の不都合の改善、人間教育への貢献、人類の文化の伝承と創造等、社会が今日求める問題を科学的に探求し、広く地球規模での人間生活の質の向上と福祉社会の実現を希求する人材の育成を目的としている。

教育体系は、上記の問題の解決につながる動植物の活用に関する理論と技術およびその活用方法の応用からなり、人間と動物との関係、人間と植物との関係および生物介在療法の3領域にわたって構成されている。

各領域では、農学の基礎的な技法を複合的に活用し、人間生活の質の向上と福祉の充実に寄与するため、博士前期課程では、課題を解決する技法とその原理を修得し、博士後期課程ではより高度な技法の応用と学術の発展に貢献できる能力を涵養し、高度専門職業人や研究者として活躍できる人材の育成を目指している。

【アドミッションポリシー】

バイオセラピー学の発想を基礎として地球規模および地域の環境問題への対処、人の心身および社会の健康維持・増進、人々の生活の質の向上と福祉の充実、生物資源と人間との新たな関わり方と共生等、現代社会が求めている豊かな社会の創造と人間生活の質の向上の実現に貢献したいという熱意をもった人を求めます。

特に、次のような人の入学を期待します。

博士前期課程：農学を基礎としたバイオセラピー学の修得を強く希望する人

バイオセラピー学を修得し、豊かな社会の創造と人間生活の質の向上の実現に貢献したいと希望する人

バイオセラピー学の基礎的な知識と方法を学んだ人

博士後期課程：バイオセラピー学の学理を追究し学術の発展に貢献したいという意欲を持つ人

バイオセラピーの高度専門職業人として豊かな社会の創造と人間生活の質の向上に貢献したいという希望を持つ人
バイオセラピー学の基礎的な学理・方法を習得し、自ら新たな学理・方法の創造に挑戦できる人

バイオサイエンス専攻

【教育研究上の目的】

本専攻では、動物、植物、微生物を対象とする生命現象の本質を個体細胞・分子レベルで統合的に究明する生命科学を基盤とした研究・教育の展開により、食糧、健康、環境に関する重要問題を解決し、人類の生活向上を導くことを理念とする。この理念に基づき、バイオサイエンス関連分野の基礎・応用研究進展に貢献する実学的教育・研究を行う。日々の研究、最先端技術の習熟、発表形式のゼミナール、学術論文講読、RA・TA活動の場となる研究室活動を教育・研究の基盤として、学会・論文発表、国内外研究者による講義、外部基準を指標とした英語教育、国内外の研究室との交流等を行う。以上の活動を通じて、最先端知識・技術を活用して、創造的・独創的な研究を推進し、研究内容を自由に発信・討論できる能力を養成する。優れた人間性を有し、農業、食品、医療分野における困難な問題に真摯に立ち向かい、リーダーシップ・勤勉性を発揮して国内外の研究・産業に貢献する人材の育成を目指す。

博士前期課程では、専門的知識・技術を有し、産業・教育の発展に広く寄与する高度専門職業人の育成、博士後期課程では、国際的な研究活動も重視し、大学教員、さらに、関連産業・研究機関・行政機関等において研究・開発・行政のリーダー的存在となる人材の育成を目指す。

【アドミッションポリシー】

本専攻では以下のような学生を求めます。

博士前期課程：バイオサイエンスに興味を持ち、生命現象の本質の理解、最先端技術・知識獲得、学会・論文発表に意欲のある人
食糧、健康、環境に関する重要課題を解決し、産業・社会に貢献する意志のある人
結果を性急に求めず、責任感を持ち、勤勉に研究できる人
基礎英語力を有する人

博士後期課程：前期課程の項目に加えて
国内外問わず研究活動の場を求め、国際的にも活躍することを志す人
後進の指導に情熱を持ち、大学教員として研究・教育を行うことを志す人

農芸化学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、実学主義の理念を基軸に、食料、環境、健康、エネルギーの4領域をキーワードとして、我々が現在及び将来に渡って抱える多くの諸問題を基礎的研究と実践的研究を通して解決を図ることに努めている。これら課題に対する論理性と創造性の醸成と高度な研究遂行能力を習得できる教育研究

体制の下、専攻生には、生物や環境がもつ素晴らしい能力を学び応用できる科学的な解析力と、社会が要求する課題解決に対する企画・立案・応用能力、更には豊かな表現力や語学力等を融合させた人材の育成を目指す。博士前期課程では研究課題に対し問題意識をもって結果を深く考察できる人材に、博士後期課程では我々が将来に渡って抱えるであろう種々の課題に対して論理的、創造的な視野で解決できる能力をもつ人材の育成に力点をおいている。

本専攻では、生産環境化学、植物生産化学、微生物学、食料資源理化学、生物制御化学、栄養生化学、生体機能化学、分子細胞生物学、環境科学、遺伝子工学を専攻科目として履修し、教育研究を教員と一体となって取り組み問題を解決していく指導体制をとっている。又、遺伝子工学実験設備や生産環境分析装置等の最先端の設備の活用、国内外の研究機関との連携、産学協同研究体制を整備し、時代の要求と国際社会の要請に対応できる人材育成のための教育システムを構築している。

【アドミッションポリシー】

本専攻は自然科学に興味を持ち、積極的に自ら研究に取り組む人を求めている。

博士前期課程：農芸化学の研究分野を多角的に捉え、新しい研究課題と現象の解明にチャレンジしようという意識が高い人。

博士後期課程：農芸化学に関わる研究を推進できる基礎的知識と技術をもち、独創的な発想と問題解決に取り組む意欲に満ちた人で、将来独立した研究者や高度専門職業人になることを強く志す人

醸造学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、我が国で唯一の醸造学の教育研究を推進して我が国独自の食文化の科学的探求及び次世代産業を担う微生物を利用した技術の開発に寄与する人材を社会に輩出することを理念とする。醸造及びそれに関連した発酵食品の学術・研究領域を、醸造技術、醸造微生物学、醸造環境学の3分野に分け、4つの主要科目を中心としたカリキュラムを構成している。酒類生産学特論においては酒類生産に関する醸造工学の理論と応用、発酵食品学特論では発酵調味料を含めた発酵食品の製造並びに機能性科学、醸造微生物学特論では醸造に関する微生物、そして醸造環境科学特論では微生物による廃棄物処理、有効利用、二次代謝産物の利用科学の教育研究を目指している。それぞれの分野では、特色ある先端的な講義及び特論実験を開講することにより、醸造業を始めとする微生物利用産業の発展に寄与する人材の育成を目指した教育・研究を行うことを目的とする。特に、博士前期課程においては微生物利用産業に関わる基礎的な知識及び微生物学的又は化学的な研究能力を有する人材育成を目指し、また、博士後期課程においては、微生物を駆使する発酵技術に習熟し、次世代の微生物利用産業の発展を支える研究者や高度専門職業人になり得る人材を育成することを目的としている。

【アドミッションポリシー】

醸造産業をはじめとする微生物利用産業に興味を持ち、微生物学的又は化学的な研究能力の向上に意欲的な学生を求めます。特に、次のような人の入学を期待します。

博士前期課程：微生物や発酵を利用した食品、医薬品、化学工業、環境関連産業等の発展に高度専門職業人として貢献する意欲がある人

研究に熱意を持って取り組める人

博士後期課程：微生物や発酵を利用した食品、医薬品、化学工業、環境関連産業等の分野に研究者として携わることを志す人

当分野の高度な専門知識・技術を駆使して新領域の開拓にチャレンジしようとする人

食品栄養学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻の理念は、独創性に富む研究者ならびに高度な専門家として、国民の健康維持・増進および公衆衛生の向上に寄与できる人材を育成することにある。教育目標は、食品の開発や安全性確保、医療における食事療法などに関する高度な専門知識・技術の修得と研究能力の開発を行うことである。教育体制は「食品機能学分野」と「栄養機能学分野」からなり、「食品機能学分野」には「食品生化学」、「食品衛生化学」、「食品機能開発学」、「調理科学」の研究領域、「栄養機能学分野」には「栄養生理化学」、「保健栄養学」、「臨床栄養学」の研究領域を配して、食と健康の関わりについて様々な角度から教育・研究が行える体制を整えている。また本専攻の教育の特徴は、農学領域に止まらず、医学・薬学領域をも含む幅広い知識を修得できることにある。

博士前期課程の教育目標は、食品の開発や安全性確保、医療における食事療法などの研究が行える高度な専門家の育成にある。また博士後期課程の教育目標は、食品学および栄養学領域において研究・産業発展の指導的立場を担える人材を育成することである。

【アドミッションポリシー】

農学を基盤とした食品学ならびに栄養学に興味を持ち、食品の開発や研究を通じて社会に貢献したいと考えている人材を求める。特に次のような人材の入学を期待する。

博士前期課程：より高度な専門知識・技術の修得を望んでいる人

食と健康に関する研究に興味を持っている人

化学および生物の基礎学力と英語力を身につけた人

博士後期課程：より高度なレベルでの研究を希求する意識の高い人

積極的に新たな技術を駆使して未知の分野に挑戦しようとする人

将来は研究や教育の職に就くことを志す人

林学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、森林と人間の共生に貢献する研究者、森林の造成や森林資源の利用・保全に関する高度な技術者の養成を理念としている。つまり、地域から地球的規模にいたる森林・林業・林産業・農山村に関する高度な知識と理解力を深め、森林の資源生産的機能と環境保全的機能に関する総合的で高度な研究能力と管理能力を養い、森林の保全とその機能の多面的利用を目指し、循環型社会の形成に貢献する

人材育成を目指している。本専攻の特徴は、自然科学と社会科学にまたがる広範囲な研究対象に対して、生物学的手法、土木工学的手法、機械工学的手法、経済政策学的手法、経営学的手法、化学的手法を駆使してその理解と問題解決力を深める教育・研究体制をとっている。これらの手法を用いて、森林・林業・林産業に関する実践的研究と森林に関わる環境保全機能の維持、生物資源の育成と活用、アグリビジネス、これからの地域社会の創出に寄与する教育・研究を行うことを目的とする。

特に、博士前期課程では、講義、実習、ゼミ、専攻内の発表会とこれらに基づく積極的な学会発表を通じて、森林・林業・林産業に関する幅広く深い学識を修得し、森林・林業・林産業を担うための専門的実践的な能力を培う。博士後期課程では、森林・林業・林産業並びに地域再生に関する高度かつ総合的な能力を修得し、研究者もしくは高度専門職業人として活躍できる人材の育成を目的とする。

【アドミッションポリシー】

森林と人間の共生に興味を持ち、森林の資源生産的機能と環境保全的機能に関する総合的で高度な研究能力と管理能力を養い、健全な森林整備や森林の持つ諸機能の総合的利用による豊かな地域社会の形成、健全な木材利用などに貢献することを希望する人材を求めます。特に、次のような人材の入学を期待します。

博士前期課程：森林・林業・林産業の発展に貢献するという意識が高い人

森林と人間の共生や循環型社会の創造、農山村文化に興味を持っている人

森林・林業・林産業に関する基礎的な解析能力を持っている人

博士後期課程：独創と工夫を持って新たな研究の開拓に意欲のある人

新たな森林・林業・林産業の形成や地域づくりに学術面からチャレンジしようとする人

生物多様性やエコマテリアルなど森林や木材と環境について研究する人

農業工学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、地域資源の有効利用と循環型社会の構築を理念とし、これらを技術的に具現できる人材の育成を目指している。このために農業土木及び農業機械分野の学問を基軸にして、現場での技術開発・問題解決と学術的な研究を両立できる能力をもった実践的な技術者を養成するための教育・研究を行うことを目的とする。

この目的を達成するために専攻内には、生物生産及び生活環境の確保に不可欠な水資源、土地資源の有効利用を考究する「地域資源利用学専修」、生物生産に必要な環境情報を広域的・局地的側面から捉え、生産環境の計画的な構築を考究する「生産環境情報・計画学専修」、土木施設の設計・施工・材料と生物生産や自然環境保全を実現するための工学的技術を考究する「施設工学専修」、自然エネルギーや自動化・知能化技術を活用した持続的な生物生産技術、および生産物の有効利用と高品質化を目指した生産物の加工流通技術を考究する「農業生産システム工学専修」の4つの専修を設けている。

博士前期課程では、基礎的な学術的知識と情報を学ばせるとともに、理論の実証経験を蓄積させるという手法で、水、土地及び食料資源の有効利用技術の開発や、環境の創造・保全を考慮した工学的生物生産技術にかかわる能力の向上を図り、優れた問題解決力をもった実践的な技術者を養成するための教育・研究を行うことを目的とする。

博士後期課程では、より具体的で専門的な課題を自ら解決できる能力を獲得させるために、課題抽出能力、課題分析能力、課題解決プロセスの企画力を養うことを目的にしている。

【アドミッションポリシー】

本専攻では、地域資源の有効利用と循環型社会構築に興味を持ち、技術者・研究者として社会に貢献しようとする意欲を持つ人材を求めています。それぞれの課程で求める具体的な人材は、次の通りです。

博士前期課程：環境問題解決に技術者として貢献したいという強い意欲がある人

地域資源の有効利用と循環型社会構築に興味を持っている人

基礎的な農業工学的知識・技術をもっている人

博士後期課程：高度な専門的職業人として地域資源の有効利用と循環型社会構築に貢献したいという意欲のある人

地域資源の有効利用と循環型社会構築に関わる研究にチャレンジしようとする人

造園学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、本学が目指す実学主義、実学教育のもとに、造園学の視点から、「人間と自然との共存」を基本とした合理的で快適な土地空間を創造あるいは保全し、秩序づけることのできる人材育成を目指している。具体的には、地域の自然環境・社会環境・歴史環境などが総合された景観を対象とする専門家、あるいは地域環境の創造や保全に係る学際的活動、政策展開および計画事業実施場面で主導的役割を担える人材である。そのため、本専攻では、自然・社会・人文科学の学際的性格をあわせもつ「造園学」(ランドスケープ・アーキテクチャ、Landscape architecture)の発展と応用を意図し、博士前期課程に「造園・景観計画学」、「緑地・環境デザイン学」、「造園植物資源学」の3つの専修分野を、博士後期課程に「造園植物・植栽」、「環境施設・機能」、「環境資源・生態」、「造園空間・計画」の4つの教育領域を設けて教育・研究を実践している。

上述した視点により、都市から原生自然地域までの計画・設計の思想と技術力、それらを構成する植物をはじめとする生物資源と景観建設・技術に関する知識と応用力を高め、造園空間に関する総体的思考力、研究開発能力、調査解析能力、計画処理能力の向上を図り、豊かな地域社会と社会資本の形成に貢献すること、とりわけ、都市化社会の中で快適環境創造に係る課題解決に貢献できる人材育成のための教育・研究を行うことを目的としている。

【アドミッションポリシー】

本専攻は、豊かな地域社会と社会資本の形成に貢献し、都市や自然地域において快適環境をもたらすための課題解決や関連する教育・研究に積極的にチャレンジする意欲的な人材を求めます。

本専攻では次のような人材の入学を期待しています。

博士前期課程：造園・景観計画、緑地・環境デザイン、造園植物資源に深い興味や意識を持ち、豊かな感性と総合デザイン力、確かな倫理観を持っている人

博士後期課程：造園植物・植栽、環境施設・機能、環境資源・生態、造園空間・計画に多くの知見を持ち、環境に関する課題解決や教育・研究に積極的にチャレンジする意欲的な人

国際農業開発学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、本学の建学の精神である実学主義に基づき、実践的で国際的視野に立った教育・研究を実施することを基本理念としている。専攻では、地球と地域の環境に十分に配慮しつつ貧困の緩和や住民の生活向上に寄与する農業・農村開発を実践する人材、あるいは国内外において国際農業開発、国際協力、および地球規模の環境問題にかかわる教育、研究、行政、農業及びその関連産業などの各分野で活躍できる人材の育成を目指す。教育においては、自然科学および社会科学にわたる広範な学問領域を統合する総合的アプローチにより、国際的農業・農村問題の解決を図るための論理的思考力と実践力、さらには、異なる思想や文化を尊重した活動を展開できる能力の向上を図る。また現場での体験から先端科学技術の修得まで、教員および内外の共同研究者とともに研究室で、そして、フィールドで学ぶ充実した大学院教育・研究を行うことを目的とする。

博士前期課程においては、国際農業の現場の実状を理解したうえでその関連産業、農村、国際社会の発展に貢献できる人材育成を目指す。また、博士後期課程においては、高度な専門知識を踏まえて課題を設定し研究を企画遂行する人材、さらには国際農業開発をリードできる人材を育成することを目的としている。

【アドミッションポリシー】

開発途上国の農業・農村開発に興味を持ち、実践的で国際的な視野に立った研究を志す人材を求めます。とくに、次のような人材の入学を期待します。

博士前期課程：将来、国際的な舞台で活躍したいという意識が高い人

途上国の農業、国際協力、環境問題に興味を持っている人

国際農業開発に関する基礎的な知識をもち、異なる文化や環境に適応しながら活動できる人

博士後期課程：国際農業開発に関わる研究遂行能力と旺盛な研究意欲をもつ人

困難な課題や未解決な研究問題の解決にチャレンジしようとする人

国際農業開発の分野で高度な専門知識・技術を修得し途上国への貢献を志す人

農業経済学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、農業及び食料、環境にかかわる経済・経営・社会・地理・歴史等に対する多面的な知識をもち、変化する社会・経済情勢に的確に対応できる人材の育成をとおして、社会に貢献することを目指している。

そのため、農業経済学、農政学、食料環境経済学などの主要科目については、特論と演習の講義を設定し、あわせて農業法特論、食品産業経済研究特論、食料環境経済研究特論、農業貿易特論、計量経済学等の科目を開講して、大学院生の能力・実力の向上を目的とする。さらに、専攻全教員の前での大学

院生の研究報告を行う農業経済学総合演習では、指導教授以外の多様な教員から専門分野を越えた広い視野からの研究指導を受けることができる。

【アドミッションポリシー】

農業問題、食料問題、農村問題、環境問題に興味をもち、経済学を中心に、経営学、社会学、地理学、歴史学等の社会科学的方法により社会問題の解決に真摯に取り組む意欲あふれる学生を求めます。

特に、次のような学生の入学を期待します。

博士前期課程：学部において農業経済学の基礎知識や方法を身につけ、専門家として社会で活躍することを希望する人

他の農学の分野や人文・社会科学等の出身でも、農業経済学に強い興味と意欲をもつ人

農業、食品産業、農村政策、環境関連団体などの実務経験をもち、専門的職業人としてのステップアップのために学術研究にチャレンジする人

博士後期課程：自ら社会の問題点や課題を見出し、論理的な思考のもとに研究を体系化するとともに、成果を直接的・間接的に広く社会に還元することに、強い意欲をもつ人

農業・関連産業の発展、食生活の安定、農村の環境保全など、地域社会や国際社会に貢献できるような研究者や行政・企業・協同組合・NPO などにおける専門職を志す人

国際バイオビジネス学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、食料・環境・健康およびバイオマスエネルギーの生産、加工、流通、小売、廃棄物の処理・活用などに関わる経営組織体（バイオビジネス）に関する教育・研究を行い、高度な教養、倫理、言語能力および専門知識を備え国内外で活躍するバイオビジネスの専門家ならびに教育・研究・行政機関などでバイオビジネスの持続的発展に貢献する国際専門家などの人材育成を目指している。

そのために、農業経営学に企業経営学、経営管理・戦略論、組織論、マーケティング論、会計学、企業法、情報学、統計学、環境ビジネス論、国際農業論、地域計画論、教育論、生態学などを融合し体系化させた「国際バイオビジネス学」を構築し、それを支えるバイオビジネス経営学、バイオビジネス情報学、バイオビジネス環境学の3領域を主たる教育・研究の柱として配置している。教育研究の遂行においては、高度な理論教育研究と実社会のバイオビジネスを対象とした実態調査などを軸としたフィールドワーク手法を用いている。

博士前期課程においては、バイオビジネスに関する専門知識と国際的知識及び教養を身につけた実践者=ジュニア専門家養成を、博士後期課程においては高度なバイオビジネス研究者および高度な専門職業人=シニア専門家の養成を目指している。

【アドミッションポリシー】

本専攻では、広く世界の食料、農業、環境、健康問題に興味を持ち、バイオビジネスの発展に貢献する行動的な人材を求めます。

博士前期課程：ダイナミックでポーターレスな食農環境ビジネスに関する基礎知識と興味を持っている人

英語をはじめとした基本的な国際コミュニケーション能力を持っている人
博士後期課程：バイオビジネスに関わる基礎理論とフィールドワーク手法を身につけ、新たな理論の開発や実践的な問題解決研究に取り組む意欲が高い人
食農環境ビジネス分野で高度専門職業人としてグローバルな貢献を志す人

環境共生学専攻

【教育研究上の目的】

本専攻は、人類をはじめとしたすべての生物が、地球環境の中でバランスのとれた持続可能な共生関係を維持するための研究を行うことを理念とし、自然科学、社会科学および人文科学が融合した統合科学分野での研究を推進できる人材育成を目指している。こうした環境共生社会を実現するための学際的な研究手法の修得によって、総合的・複合的な研究能力の向上を図る。

博士後期課程のみを設置している本専攻には、他専攻で修士号を取得した者のための進学制度のほか、ユニークな点として、実社会でのキャリアと研究業績を積んだ社会人を対象とした入学制度がある。社会人が在勤・在宅のまま大学院に在籍し、講義や論文作成指導（スクーリング）を受けながら、これまで培ってきた豊富な知識や卓越した技術を集大成して、環境共生社会の実現に繋がる成果をとりまとめた博士論文の完成を目指すとともに、更なるスキルアップを図り、実社会で活躍できる人材の育成を目的にしている。

このように本専攻の研究活動は、多次元の学術的・社会的ニーズに対応し、さらに未来の環境・社会をも視野に入れているため、指導教授・教員もまた、各種の研究領域・分野をカバーしうる優れたスタッフを配置している。さらには、連携大学院や学内外の非常勤講師による指導制度を大いに活用し、最良の教育を実施している。

【アドミッションポリシー】

現代社会において懸念されている地球温暖化や環境汚染など、環境悪化に伴う自然生態系の保全や、それらが人間に及ぼす健康被害や生活環境への影響の削減にむけた方策、また積極的な環境共生型社会の構築を具現化するための理論や方法を探究し、独創的かつ学際的な立場から研究を行って、その成果を社会の発展に活かすことができる人材を求めている。本専攻への社会人入学者は、職務との両立を図り、多忙な中でも3年間で必ず学位論文を完成させる強い意志と実行力を有していることが前提となる。指導教授は、その点に十分配慮した指導を行っている。